

23 0-126

俳諧資料カード	
年代	
編者 筆者	4/7
書名	新作 毛太持 大 改正
備考	

(下垣内蔵)

玄 いろ 四は 九に 五は 十へ 十一と 十二ち 十三り 十四ぬ 十五る 十六を 十七
 嫌 十八わ 十九か 二十よ 二十一た 二十二れ 二十三ろ 二十四つ 二十五ね 二十六ね 二十七ら 二十八む 二十九ろ

新版

改正

をりやま幾大成

録目

る 一里 二の 三里 四に 五留 六く 七や 八里 九ま 十幸 十一け 十二ふ 十三こ 十四の 十五て 十六お 十七わ 十八る 十九き 二十ゆ 二十一め 二十二み 二十三し 二十四ゑ 二十五ひ 二十六も 二十七せ 二十八す 二十九漢 三十和 三十一豆

序

古人の式亦志んんかりみ
 あつりねまむさふまきあひのな
 ちほふやとねまふあひ折し
 反在れそしんりし海あつるの
 あつとまきしんさなひりそし物
 の名とちまふあひとすんよめ

世 世のわがまを
世四丁 世
世 世のわがまを
世四丁

世 足ゆとまろ
世五丁 大
世 足ゆとまろ
世五丁

世 云のそすてふえ
世六丁 世
世 云のそすてふえ
世六丁

世 治定してをね字
世七丁 世
世 治定してをね字
世七丁

世 治定のり
世八丁 世
世 治定のり
世八丁

世 八字れ付所
世九丁 世
世 八字れ付所
世九丁

世 指合の汝法
世十丁 世
世 指合の汝法
世十丁

世 句數并去嫌
世十一丁 世
世 句數并去嫌
世十一丁

世 非神祇詞
世十二丁 世
世 非神祇詞
世十二丁

世 非尺教之詞
世十三丁 世
世 非尺教之詞
世十三丁

世 非尺教之詞
世十四丁 世
世 非尺教之詞
世十四丁

世 非戀詞
世十五丁 世
世 非戀詞
世十五丁

世 速懷之詞
世十六丁 世
世 速懷之詞
世十六丁

世 人倫之詞
世十七丁 世
世 人倫之詞
世十七丁

世 居所之詞
世十八丁 世
世 居所之詞
世十八丁

世 夜分之詞
世十九丁 世
世 夜分之詞
世十九丁

世 山類之詞
世二十丁 世
世 山類之詞
世二十丁

世 水邊之詞
世二十一丁 世
世 水邊之詞
世二十一丁

世 四季之詞
世二十二丁 世
世 四季之詞
世二十二丁

世 百韻并四角歌仙
世二十三丁 世
世 百韻并四角歌仙
世二十三丁

世 純筆法様
世二十四丁 世
世 純筆法様
世二十四丁

世 臨帝覺悟
世二十五丁 世
世 臨帝覺悟
世二十五丁

三 俳諧六義

八雲市抄又風はる人奇くを意に七
 尺もて抱ふと世は世そそあわ
 志はしかとれあふ余は辨して

4 念く人梅を公乃々梅もも

八雲市抄賦かう人奇くを意に
 さるの義を公乃々梅もも

梅もも梅ももこれ梅のさうけ

八雲市抄比はる人奇くを意に
 よむ(さ)よや

いさめやんの物た多とと

八雲市抄具はる人奇くを意に
 ぬく人奇くを意に

風

賦

比

真

眞

奉堂

雅

八雲市抄雅はる人奇くを意に
 まるぬかやまをりして

頌

八雲市抄ま頌はる人奇くを意に
 たやくや小判さうて

四 俳諧諸部發句

神も出る屋うよ
 朋水

煤さうてちへあては佛うれ
 不ト

年れさや焼て侍の夜さう
 芳樹

無常

長傷

辭世

進善

懐旧

述懐

佳移

名所

名物

うき事れおろし草花の標

かく斗かゝり姿やほしあが

我うとち四十世花の奉白き

ささる後まんぢうももももも

よのやまゆりもあきらむささ

菊のふりやうきももももも

山吹やささる蛙水の底

かきとあやうおねふかあき

晚山

礫水

和及

方山

鬼貫

尔云

饒別

擬行

絵賛

自筆

加久

對

文字

古事

平説

みしあやうおねふかあき

月花れこれや海ことの

あさるひけあきももももも

かぐれや年々行乃

親の谷子ハ山名乃

礎とまふ分も人乃力

伊勢海をや旅したる

吾を白け下よと

杜

霽艇

蒙如

金

曾醉

正由

子春

素吟

成之

詩

子妹乃をよめいひますまに三月

巨海

歌

急ぎをこころのうらみはれぬれ
世の中よ見ゆそふれかりいひ

長之

世の中よ見ゆそふれかりいひ
世の中よ見ゆそふれかりいひ

離雲

世の中よ見ゆそふれかりいひ
世の中よ見ゆそふれかりいひ

常矩

世の中よ見ゆそふれかりいひ
世の中よ見ゆそふれかりいひ

強詞

世の中よ見ゆそふれかりいひ
世の中よ見ゆそふれかりいひ

似空

小

世の中よ見ゆそふれかりいひ
世の中よ見ゆそふれかりいひ

一箇

狂云

世の中よ見ゆそふれかりいひ
世の中よ見ゆそふれかりいひ

七巻

題

世の中よ見ゆそふれかりいひ
世の中よ見ゆそふれかりいひ

かく

仁心

世の中よ見ゆそふれかりいひ
世の中よ見ゆそふれかりいひ

松乃

眺望

世の中よ見ゆそふれかりいひ
世の中よ見ゆそふれかりいひ

心圭

秀

世の中よ見ゆそふれかりいひ
世の中よ見ゆそふれかりいひ

正由

云々

世の中よ見ゆそふれかりいひ
世の中よ見ゆそふれかりいひ

貞徳

た

世の中よ見ゆそふれかりいひ
世の中よ見ゆそふれかりいひ

堂

凡

世の中よ見ゆそふれかりいひ
世の中よ見ゆそふれかりいひ

鞭石

た

世の中よ見ゆそふれかりいひ
世の中よ見ゆそふれかりいひ

聖

重

世の中よ見ゆそふれかりいひ
世の中よ見ゆそふれかりいひ

鉄扇

流

世の中よ見ゆそふれかりいひ
世の中よ見ゆそふれかりいひ

探了

能傳

能傳

能傳

能傳

能傳

能傳

能傳

能傳

能傳

さひかて抱きかきし柳うれ

猫乃ごきゆらび乃貝や斤せりひ

面澄さくらやまかんれ小ゆらぎ

月影くら柳くられそああふらる

うらねやえぬ少くも揺かり

傘エグ日影を星光手向うのち

皇里よそふて三月七日八日くれ

吾を方に秋風きく親に二人

まのあともろぐまこゆるらぬ

琴丸

琴風

鷺助

素堂

雪

浪石

信徳

松屋

月

あつこ

あつこ

あつこ

あつこ

あつこ

あつこ

あつこ

破き葉の石蘭は秋出次

上童もろく粽の屋ぐさや

毒よほま様まうけす柳か

星に七夕牛又蠅

天所

乃ん塩下

柳うれ

調柳

西吟

竹亭

常正

道柯

如泉

不角

琴風

行舟

くまふ成て菊は
軒なりくみれぬぬは
鱈乃もも蓮とらふ事あり
蓮舟乃せむい中ももき葉が
六月や掌の雲をく嵐山
かま戸や海舟櫓を地と捨小舩
麦喰一宿とふとわらひ終が
蓮池よ生れてきれ蛙うれ
藥乃粒とふ人若く病が

水 知扇 目恍 明水 荷等 言水 和及

ぬくくたきまき
三芳聖の花海くひてふも旬
妹乃若灯やそさむと四ひふ
抱よりき風や柳りとの志連
五 俳諧三十俣
幽玄侘 日くれきのみありや蓮さくら
行雲 天もむらえらも電みだれ足
竹風れ相もや雲は月ひとら
峯乃雲すくくはまの所へ
名月や雪乃人よ雲乃景

作者不知 越人 梅盛 立圃 凡花 其角

遠白

遠白

物象

不

理世

松民

至極

燈籠

月乃名を峰の超る天津丁

妹よとひ水すははは乃城

世よとて道踏ちかたつり

菊咲ぬ母乃は世よ海まきむ

花乃電鐘ハ上登り浅草の

妹風乃吹さるり人荒良

山中や菊ハ多形下湯城白ひ

菴の若く鶯竹ようはくを拜

三時
暮四
晨風
七歳
怪
明水
友元
松

存直

秘麗

松作

竹傳

野

秘逸

越群

古

面白

鳴る風去を花よふ友登り

志く雲とともまき山あり松花

つとをれい乃むれあ

里くすを夕を松乃さるり風

元日や赤まゆづりれを乃そく

唐橋乃春ハむよりたむらあて

乞ハくともくわむ乃身乃山

都丹より志ろを世もあうらる

たつてハ雲まの赤は春をさ

一矢
竹亭
常友
野
玄来
七七を
貞室
来

一ツク

鶯乃二足よ成又夕

心奪

鶯曲

松崎や日けりる春有けりや

心奪

鶯本

よくをを花咲垣根く

心奪

鶯様

ひらけさす鶯もさうささ

心奪

鶯体

富士よ八月を夜 蝶やされ月

其角

鶯様

何をそ彼得乃八月人たりの

鬼貫

強力

木を伐て投物よりや夕乃月

卯水

三 誹諧大意

鶯乃夕をいふにあらむ夕の月の今夕乃鶯を

りて用也一 鶯うら 鶯はひのり 鶯はひのり 鶯はひのり

又連他 兩用乃 網といふを 或ハル 悵屏 凡詩 故云と

りて用也一 鶯うら 鶯はひのり 鶯はひのり 鶯はひのり

又連他 兩用乃 網といふを 或ハル 悵屏 凡詩 故云と

りて用也一 鶯うら 鶯はひのり 鶯はひのり 鶯はひのり

又連他 兩用乃 網といふを 或ハル 悵屏 凡詩 故云と

りて用也一 鶯うら 鶯はひのり 鶯はひのり 鶯はひのり

又連他 兩用乃 網といふを 或ハル 悵屏 凡詩 故云と

りて用也一 鶯うら 鶯はひのり 鶯はひのり 鶯はひのり

け門女躍し車とてや門かばり

こけのふ又心かゝひ網名別乃相とて規操其意欣
容之謂之棄胎はとておぼやうくやゆらん

五 ぬたの切字

活気の氣 為墨よりなごうたれた林が 信徳

櫻の帯乃さたみゆりて 奉堂

志のひび 蝶うろ下ははきき細ひとのひ 湖春

まの志とね てきくうま こそお母をまはさうらひとがけ 林下

もあふ 霜はゆるやうととみも人もぐま 一言

なつむぐぬ初 田代のあひり 知足

かどか 足つらあまも代もかのみさあうら 信正

うり こそうりかり後乃宮をれ秋乃えれ 一鉄

まわし 此果の有かり海のとこ 言水

うりま 柱引りな漢研され乃あつたさ 柗雨

らむ それどもお向らん月の暮 玄来

せ一字とたり 都らん小補フクと銀トヤ花ヤが 高政

独乃の 毎たうらきん 杜キツみ 周也

風をのびかこしとひとけひ 如琴

り

大ゆれ水乃く人をあざり

和之

り

いさめまのそまうみり不破は空

荷翠

り

いさめまのそまうみり不破は空

竹亭

り

いさめまのそまうみり不破は空

山川

り

いさめまのそまうみり不破は空

桐葉

り

いさめまのそまうみり不破は空

野水

り

いさめまのそまうみり不破は空

又成

り

いさめまのそまうみり不破は空

竹翳

り

いさめまのそまうみり不破は空

東海

り

いさめまのそまうみり不破は空

常矩

り

いさめまのそまうみり不破は空

松笛

り

いさめまのそまうみり不破は空

土芝

り

いさめまのそまうみり不破は空

軒栞

り

いさめまのそまうみり不破は空

通達

り

いさめまのそまうみり不破は空

方山

り

いさめまのそまうみり不破は空

嵐君

り

いさめまのそまうみり不破は空

白文

り

いさめまのそまうみり不破は空

唐乃

り

いさめまのそまうみり不破は空

白文

り

いさめまのそまうみり不破は空

白文

り

いさめまのそまうみり不破は空

白文

り

いさめまのそまうみり不破は空

白文

かゝる 傾城此親みまがへ他乃 乳鷲

う 位毎乃のゆるが史がたがう月

中れり 業乃因を根とてれり高蒲草

哉まよふ さらけあはしむとをが聖霊會

やハ 極喜まやハのむけ毒を死

え くらへる律れ科の辰乃とて

しを さればりそゆとてままれおれ菴

白事 價ある月とてとてみされ

たり 貴とあやうみ人のまうはとておれ

乳及

古根

如泉

一水

富元

周木

芭蕉

危費

精治はるる一編とてきて長かり

扇のいりし物とて行乃とて

森柳のいばる階とてけりし所

張丸のいばる網代守

けりし本社といはるる交本立

籠茶のいばるるいりし物とて

いりしとん御札といはるるまはあ

五月雨何を系とて汲よの人

水仙のとて何ぞのけりしとて

所分

千那

亀棟

正義

昌維

周竹

荷翠

鞭石

翠翠

あざ 人あざらふとてあぬまゝのま 岸水

いく 子とりをいづのうらむは乃暮 其角

とれ ぬいふれ本物ききし秋乃あは 尚白

そら 色まぬがまう調くを絆きり 清三

そら けふありて石めくを初さる 常夜

かこ 榮列てあるかともうす雲乃虎 明水

い川 ああ去ふいつの物とて麦一穂 玄察

さそ ねらうが祇堂は水乃乃云 季吟

いさ 承六のうらゝ母家考きとて母 軒柳

いざ ざらくを雪乃よとあぶ所まぐ 芭蕉

い川 月ハ川底の酒よ一おふらぎ ぬ件

よ 白魚は餌よあぶ物よ水乃あは 貞隆

みる みるあはるくも花よあざらふ 幸枕

蓮葉よあまのかかふかやとらふ 小店

肉を衣へも巻きてつりぬ萬葉賣 松叟

右足代衣は四十に足と踏くもぬ 光雪

つがふ 鞭よりまかれ様 将 松木

心 心康とさかしくつをわたりぬれ 志雪

くる人打ちきまうと白と引ゆる

松が食りしつてくわく松がうり

又どき乃三字の連続もなすさうあつんし竹を
殊り當分の能よ人のひあるをまてまてうた
るよまうりて可定

⑦ 現在乃哉 うき哉

現在乃哉 後白のつめりれは黄のをねが
うき哉 中は秋はととの月れそぬう
これらのももめく能立まひちと信をうじゆり

⑧ 現在未承

あうしをしをし短し 此れ現在

みきうまう 此れ未承

此ゆきの現在未承そのつぎも切字

はれとま 此れ未承

これ六切字のあうぬ

⑨ かりんぬ 不のぬ

右ぬの字下にかの字れうひて使ゆるハ半ぬ字
たんとを ちぬ不 ありぬ早 多ひぬ早
ちぬ不 ちぬ不 ちぬ不

乃休く枕せしときよわよと云ぬ事て物建御も
みわわど細きういあう声はうりて早ぬもあ乃ぬ
こと成事なり

足ぬきえぬ たらぬ えてぬ ああぬ

きへ(甲)世でえめれなりはききぬ乃字なき
くちききききききききききききききききき

①十七乃乃乃乃乃

あひ乃や あや吞去用もさく海しきよ

あひ乃や あや吞去用もさく海しきよ

あひ乃や あや吞去用もさく海しきよ

あひ乃や あや吞去用もさく海しきよ

あひ乃や あや吞去用もさく海しきよ

あひ乃や あや吞去用もさく海しきよ

あひ乃や あや吞去用もさく海しきよ

あひ乃や あや吞去用もさく海しきよ

あひ乃や あや吞去用もさく海しきよ

あひ乃や あや吞去用もさく海しきよ

あひ乃や あや吞去用もさく海しきよ

も 何夏も道は好くさむらりて
わらぬ 持て世よ身はさしめぬ命はて
ま 都毀穢と云へし不自中して
此外より又

教生念誦よ名内なる教りて

信佛よとけ白ハ教生念にハり字とひひりて
さしてあそとある教よとせしむる又二白中を
二所抱^{カハ}たる白とあり

定直とてたよひの念に念か

又まわつてはりてとらん事なり。森のりあ
あつらうとてさるるあまのあつらうりて
うやうは虚^虚字あるはとせしめていふ人字はく
て

⑤ 魚の字と何れとて人ハ舞りて

そ 魚の字と何れとて人ハ舞りて

あ 魚の字と何れとて人ハ舞りて

よ 魚の字と何れとて人ハ舞りて

あまらよとけいれ字有てハてとせしむるを

されき人々いやはしん

⑤ 上より下へいりて文字有ててと留分仕様

松云のち中より作いふいふとされいふとさだめ

うごひの字有ててとせむとさるるのうごひとされ

とせむとさるるのうごひとされ

いふまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝ

いふまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝ

いふまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝ

は信よとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

物とけり定まらるる物とけり定まらるる物とけり定まらるる

⑥ 下より上へいりてとせむ

陽よにぬいさうくううて

中よひとりの戒となりて

此二つれわい字うりてとせむとせむ

⑦ 下より上へいりてとせむ

毎ハ芝ノリ月いさうとせむ

下はる乃よ多公兼執くうりてとせむいひとせむいひて其格と

用ひきてうりぬきかて秘りさうとせむいひとせむいひとせむ

⑤ 去ば留

まゝあつてなと猫乃子色は

上ノ名はげく黄ひかりともむらりして多ク

蕨虎杖ワケイダありりせし

下は白の濁りとも相もさしひきほるれど

とまると又それくてもあつたり

佛ハツはむらひ紐ヒモきくは

にほまふ下は白の濁り留はさほりひきあつたり

あつていづれとも留りたり

⑥ 去ば留

う 葉乃あつて塔タニまタり

ろ 小椽コクラ縄ナワ平ヘと人おゆり

す 門カド洗シ乃家うかづりせし

川 伏フシ入イれ焼ヤキ場バきうり

ぬ まゝと度カラ門カドは為ナり

ふ 細ホソくりあつたり

む 暮クり日ヒるうり

ゆ 送り火送り火ひきり文文てき

九を好杖波く 四のさ

大くかやうくくさあさるゆり又内あくてま
留るる例をゆりまづくくくくかかておるハ
セがびまうま也

①大くくくくくくくくくくくくくくくくくく

集くくくくくくくくくくくくくくくくくく

肝とくくくくくくくくくくくくくくくくく

炭取くくくくくくくくくくくくくくくくく

言は葉よ骨^ホ田くくくくくくくくくくくく

徳乃れをくくくくくくくくくくくくくくく

親乃れをくくくくくくくくくくくくくくく

集^{シヤカ}のくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくく

①丸くくくくくくくくくくくくくくくくく

十九 伽^ハのくくくくくくくくくくくくくくく

十八 塔^{トウ}のくくくくくくくくくくくくくくく

十六 月^{ツキ}のくくくくくくくくくくくくくくく

帆もハ本物ありひきりさる

⑨とね字

私云らんとうこみん其の別でかかじ別じつと
いづまきさいりりききめさびれ字あつて
とねとねと

あご

物らさうり別じんとを別じんと

それ

りぬ後これをわかれ別じりん

いら

なやあつたけとさるりん

いり

清いせよいりなほ用ひあつて

や

みだらとてや白髪ゆりん

右あつたけを物ぶふ及び又らんをわすれぬ

白所りていら下とてな 中々あつたけ下とて

べきなどりの家五門のてあそと皆らんれかり

あつたけ

⑩治定とね字

う

治定とびてさうり別じり教とん

を

私乃雪張りさうりたつりん

よ

おつりさる治定とね私乃文とん

少人何の能くをのめられ日

これをしてあそを前白よめるをく得てはあ
ゆるとと事ありや

共一白二川あり白

そをいへる交神老ほる人

さうやる屋ひ乃勝れぬとみて

うづらちの白の秩をさしてハ自多れ事ん老ほる人

他人れりてまらやる屋ひの勝れぬとく乃や

アもるん事ん水とさる事んハ近所の事んすまも

と下れ遠一白二ツト事ん思ふは初年相事んあん

①下は白二五回三乃事

さう一ハ文ある方れさうあか

子一ハ事ん事んハ母親ハ

こわし二五回白とてまらぶる白想は是とくハ志
ゆる

身乃とり換りハ事ん事んハ事ん

子にせらまされておられ母親

事ん事ん事んハ事ん人さうりや

子^コの^ノ枝^エと^ト花^ハ席^{セキ}に^ニ坐^マりて^テ思^シふ^ルは^ハく^ク白^{ハク}敷^シを^シま^シひ^スと
 年^{ネン}柄^{カバ}と^トは^ハく^ク又^{マタ}母^ボの^ノ心^{ココロ}を^シて^テは^ハく^クの^ノ制^{セイ}す^ルを^シて^テの^ノ事^{コト}は^ハく^クま
 下^シと^トも^モか^カ合^カと^トも^モこれ^レ思^シふ^ルを^シて^テは^ハく^クの^ノ暗^{カク}め^ル人^{ヒト}と^トも^モ思^シふ
 か^カ何^ニと^トも^モあ^ラず^シに^シて^テは^ハく^クの^ノ事^{コト}は^ハく^クま^シひ^スと^トも^モあ^ラず^シに^シて^テは^ハく^クの^ノ事^{コト}は^ハく^クま
 後^{ノチ}に^シて^テは^ハく^クの^ノ事^{コト}は^ハく^クま^シひ^スと^トも^モあ^ラず^シに^シて^テは^ハく^クの^ノ事^{コト}は^ハく^クま
 や^ヤう^ヤ好^{コト}所^{トコロ}の^ノ又^{マタ}公^{キミ}貴^キ人^{ヒト}初^{ハジ}に^シて^テは^ハく^クの^ノ事^{コト}は^ハく^クま^シひ^スと^トも^モあ^ラず^シに^シて^テは^ハく^クの^ノ事^{コト}は^ハく^クま
 の^ノ心^{ココロ}を^シて^テは^ハく^クの^ノ事^{コト}は^ハく^クま^シひ^スと^トも^モあ^ラず^シに^シて^テは^ハく^クの^ノ事^{コト}は^ハく^クま
 心^{ココロ}を^シて^テは^ハく^クの^ノ事^{コト}は^ハく^クま^シひ^スと^トも^モあ^ラず^シに^シて^テは^ハく^クの^ノ事^{コト}は^ハく^クま
 心^{ココロ}を^シて^テは^ハく^クの^ノ事^{コト}は^ハく^クま^シひ^スと^トも^モあ^ラず^シに^シて^テは^ハく^クの^ノ事^{コト}は^ハく^クま

此同字別吟

カスカ 春^{ハル}日^ヒは^ハく^クも^モ日^ヒも^モ 花^{ハナ}装^シは^ハく^クの^ノ事^{コト}は^ハく^クま^シひ^スと^トも^モあ^ラず^シに^シて^テは^ハく^クの^ノ事^{コト}は^ハく^クま

物^{モノ}鮮^{セン} 勅^{チク}令^{メイ}は^ハく^クの^ノ事^{コト}は^ハく^クま^シひ^スと^トも^モあ^ラず^シに^シて^テは^ハく^クの^ノ事^{コト}は^ハく^クま

関^{セキ}白^{ハク}は^ハく^クの^ノ事^{コト}は^ハく^クま^シひ^スと^トも^モあ^ラず^シに^シて^テは^ハく^クの^ノ事^{コト}は^ハく^クま

操^{サウ}行^{コウ}は^ハく^クの^ノ事^{コト}は^ハく^クま^シひ^スと^トも^モあ^ラず^シに^シて^テは^ハく^クの^ノ事^{コト}は^ハく^クま

天^{テン}智^チ天^{テン}皇^{クワン}は^ハく^クの^ノ事^{コト}は^ハく^クま^シひ^スと^トも^モあ^ラず^シに^シて^テは^ハく^クの^ノ事^{コト}は^ハく^クま

子^コ孔^ク雀^{セツ}は^ハく^クの^ノ事^{コト}は^ハく^クま^シひ^スと^トも^モあ^ラず^シに^シて^テは^ハく^クの^ノ事^{コト}は^ハく^クま

蛸トウは日ヒも暮ムも山ヤマは表ウラ今朝ケサは今イ皆コ是コ
 年トシ是ケウ日ヒも今イマのコトも心ココロのコト一ヒト昔イナカ日ヒは日ヒ陰カケ
 昨キノ之ノ日ヒは不キズ嫌ミ月ツキはさサざざれれをを所トコロくくをを所トコロ
 けケのノたタらラひヒ戸ドは上ウ戸コ下ゲ戸コ天下テンカは下ゲ卒ソツ
 黄泉ヨミは泉イハ海ウミ月ツキ西ニ王キ母ハハは母ハハ百ヒャク合カフ
 花ハナは百ヒャク字ジひヒ形カタををぐぐぐぐ大ダイ概カフ是コト
 准スズメじジ吟イン味ミををべべべべ

④ 句数并去嫌

四季ヨシキ五イ月ツキハ 三ミ句クりリ君キミまマまマほホぐ
 秋アキ 二ニ句クりリまマまマほホぐ
 神カミ祇シ 一ヒト句クりリまマまマほホぐ
 三ミ句クりリまマまマほホぐ
 虫ムシ 一ヒト句クりリまマまマほホぐ
 三ミ句クりリまミまマほホぐ
 水ミヅ 一ヒト句クりリまマまマほホぐ
 三ミ句クりリまマまマほホぐ
 居イ所トコロ 一ヒト句クりリまマまマほホぐ
 三ミ句クりリまマまマほホぐ
 夏ナツ冬フユ 一ヒト句クりリまマまマほホぐ
 三ミ句クりリまマまマほホぐ
 秋アキ 一ヒト句クりリまマまマほホぐ
 三ミ句クりリまマまマほホぐ
 人ヒト 一ヒト句クりリまマまマほホぐ
 三ミ句クりリまマまマほホぐ

〇上

〇三

三石 旅
三百より多し八石まであり
てもうすは魚の宝五三

二石 生類
もつ虫魚 鯨魚ト多
るのやうなるもの

二石 植物
本草竹葉トあり
もつ竹ト竹トあり

二石 名所
二百より多し八石まであり

三石 次分
三百より多しあり
一石より多しあり

三石 降物
二百より多しあり
雨あつたりのもの

三石 後年物
二百より多しあり
旧暦の物

三石 生類
うりたりのもの
トも虫魚 鯨魚ト多

三石 植物
かりものも二百より多
し本草ト本草トあり

二石 衣類
二百より多しあり
白神ト三石まで

二石 國名
二百より多しあり
名所ト名所トあり

二石 風分
二百より多しあり
名所ト名所トあり

二石 天象
二百より多しあり
名所ト名所トあり

神祇之類

天掌會 新掌會
日蔭のて 見蔭のて
さし衣 大忌衣

法 荒法 くらりり
社 社 社 社 社 社

丸本 玉垣
其の井 其の井 其の井 其の井

孫殿 御世後
御世後 御世後 御世後 御世後

長友 市師の
市師の 市師の 市師の 市師の

御秘 色り
色り 色り 色り 色り

宮居 竹の
竹の 竹の 竹の 竹の

名居 朱の
朱の 朱の 朱の 朱の

行う 行を
行を 行を 行を 行を

御世後 御世後
御世後 御世後 御世後 御世後

御世後 御世後
御世後 御世後 御世後 御世後

夏神 御連
御連 御連 御連 御連

室敷 わがせをば 入嫁 ヨロ 入婿 コト 礼 おちせ 新枕 新

名後家 ケイセ 傾城 傾 傾城 傾 傾城 傾 傾城 傾

妓女 ケイ 楊花 ヤウカ 廓 クワク 傾城 ケイ 傾城 ケイ 傾城 ケイ

鳴川 ナガハ 付 ツキ 付 ツキ 付 ツキ 付 ツキ 付 ツキ

名流 ナリウ 町 チヨウ 小 コ 性 セイ 名流 ナリウ 町 チヨウ

姫女 ヒメメ 妾 セウ 妾 セウ 妾 セウ 妾 セウ 妾 セウ

衣 イ 衣 イ 衣 イ 衣 イ 衣 イ 衣 イ

多 タ 多 タ 多 タ 多 タ 多 タ 多 タ

契 キ 契 キ 契 キ 契 キ 契 キ 契 キ

伴 バン 伴 バン 伴 バン 伴 バン 伴 バン 伴 バン

新 シン 新 シン 新 シン 新 シン 新 シン 新 シン

名 ナ 名 ナ 名 ナ 名 ナ 名 ナ 名 ナ

侍 シ 侍 シ 侍 シ 侍 シ 侍 シ 侍 シ

下 カ 下 カ 下 カ 下 カ 下 カ 下 カ

占 ウラ 占 ウラ 占 ウラ 占 ウラ 占 ウラ 占 ウラ

後家 賤女 市女 下女 柱女

○**死** 無常之詞 哀傷

掘り山 乃了野

掘り山の煙 人煙場 母をさし煙

死出乃山

死出乃山 乃了野 死入 乃了人

棺 乃酒 乃乃乃

乃乃乃 乃乃乃 乃乃乃 乃乃乃

中陰 四十九 乃乃

乃乃乃 乃乃乃 乃乃乃 乃乃乃

版切 自害 白骨

乃乃乃 乃乃乃 乃乃乃 乃乃乃

骸骨 乃乃乃 乃乃乃

乃乃乃 乃乃乃 乃乃乃 乃乃乃

○**死** 懷之詞 并 懷回

泣青

泣青 泣青 泣青 泣青

老 乃乃乃 乃乃乃

乃乃乃 乃乃乃 乃乃乃 乃乃乃

後家

乃乃乃 乃乃乃 乃乃乃 乃乃乃

鏡 乃乃乃 乃乃乃

乃乃乃 乃乃乃 乃乃乃 乃乃乃

眉 乃乃乃 乃乃乃

乃乃乃 乃乃乃 乃乃乃 乃乃乃

古家其目也 措切 不仕合 継子 寡 乞食
フルイへ ソノヒスギ スリキリ フレア合 ミコ ヤモシ ムツキ
 世於人 後世 借債 借債借債 年忌 月忌 遠忌
ヨステヒト トセイ ヤクセシ 借債借債 子ニキ ダツキ ユニキ

甲 非忒悽詞

翁 炭賣翁 賤身 賤 愚耐 瘵
ツクシキキ スミウリノ 賤身 賤 愚耐 瘵

報盲女 病 草乃庵 柴の戸
ゴセ ヤミ ヲツラヒ イホカ シノ

聖 人傷之詞

雲乃上人 教人 武士
云乃上人 教人 武士 士の字付くつらふつとも命子等 侍兵即等妻者使者

醫師 佛師 繪師 鈔師 僧者
醫師 佛師 繪師 鈔師 僧者

多者 僧 比兵尼 農人 商人 鐵人
多者 僧 比兵尼 農人 商人 鐵人

妻也 伶人 藝者 婿者 婿者 婿者
妻也 伶人 藝者 婿者 婿者 婿者

馬子 番方 端人 漁翁 舟人 桂女 身牙 我獨
馬子 番方 端人 漁翁 舟人 桂女 身牙 我獨

月虹のし 家のあゝ 月夜 亭主 兄姉 妹海士 民
月虹のし 家のあゝ 月夜 亭主 兄姉 妹海士 民

媛字守 狂人 御乳 舟人 衆乞 推美 鷹也
媛字守 狂人 御乳 舟人 衆乞 推美 鷹也

鬻女 盜賊 海賊 強盜 祢宜 神 若君
鬻女 盜賊 海賊 強盜 祢宜 神 若君

ねむる天代川 星と唱 餘名 衣ぐ 網代床 出
天産女 化抽 辰 祭 辻 居

○ 旭夜分洞

法灯 鐘家 交神 示 乃 曙 夕 夕 夜 燒 火
苦 欠 泊 夜 を 侍 月 夕 月 終 沖 火 燒 常 持 燒
床 之 伏 一 飲 酒 樽 電 明 夕 山 家 的 泉 火 鳴 々 乃 所
乃 入 泊 亦 夕 月 出 朝 朝 夕 月 夕 我 鐘 寺

孫の床 泊 持 入 相 夕 切 夢 現

○ 山類之洞

山 嶽 岡 洞 祖 坂 各 沖 之 高 根 蘇 泐 峯
材 松 木 炭 竈 山 井 山 成 浮 嶋 小 垣 小 嶋 松 嶋
山 梨 丸 山 鳥 籠 山 夕 夕 雲
葛 城 久 米 岩 の 夕 夕 九 折 知 夕 山 世 岩 夕 山 之 鐘

○ 旭山新洞

おろくくそ... 吉田清稜 十九日 具足... 後
これに乗て... 二十日 辛日青 九日... 煎餅と紫 同日
は... 九日... 俣都波鴻

内真 九日... 俣都波鴻
九日... 俣都波鴻

外記乃... 九日... 俣都波鴻
九日... 俣都波鴻

振葉 東風... 俣都波鴻
九日... 俣都波鴻

魚... 俣都波鴻
九日... 俣都波鴻

雨水乃節 五月... 俣都波鴻
九日... 俣都波鴻

茶... 五月... 俣都波鴻
九日... 俣都波鴻

根白草 五月... 俣都波鴻
九日... 俣都波鴻

野大根 五月... 俣都波鴻
九日... 俣都波鴻

香... 五月... 俣都波鴻
九日... 俣都波鴻

鳥... 五月... 俣都波鴻
九日... 俣都波鴻

キ 本地燧燵

サ 依保非

三月ニ乃ごの

ヨ 乃ごの

ア 暖日

カ ぬめり

ナ 河還

ヨ 竹窓

ハ 万芸楽

シ 春鶯鳴

チ 梅がえり

子 子目夜

カ 當衣

シ 松乃花

ミ みるみ

チ 大并

十 十カワリ

カ 霞

三 三月より

ハ 八重庭

カ 赤乃衣

チ 赤乃袖

一 一カワリ

カ 霞

シ 白魚

ナ 白魚

チ 于總

チ 青苔

カ 物さわり

カ 龍巖

カ 山椒乃枝

チ 野老

カ 雲乃ま

カ 霞乃洞

チ 春麻気

チ 氏

二月

仲冬 夾鏡 抄見月 小孝生月

中和節

二月

驚蟄

初春

初午

初午

東福寺

水同寺

本妙寺

糸 初午

秋生子

釋奠

二月

春日条

園井

糸 上五日

大原野条

上卯日

祈年条

園井

座乃糸

祇園

八講

列見

十一日

公卿糸

吉野

乃餅

初見

十一日

とろり

吉野

乃餅

初見

十一日

地虫出ず 蟻穴と云る 陽炎 猫のうさ 猫乃

いとゆふ 糸あそふ 毛代さがる 初紺 たる 踵

蝶 奇居虫 紀 飯蛸 蛭 鮎乃子取 田螺

初雷 彌代初色 雷 初稻びりり 八重片梅 彼岸

桜 花を待 初花 初様 彼岸

系様 玉桂 皇桂のせ桂 飛入桂

苗代黄 燒野 燒野 燒野

煙とやも理乃 藤 さくはれ 藤 萩燒原

煙の川 回すく 思と 苗代 水口系

蒜 のひる 大岑 水葱 槁 抱 時 麻時

藍 まく 獨活 花 天を菜 女の氣 芍

枚葉 防風 荳根 堀 山葵 虎杖 茶

かどく 兎 草乃 糸 葉 加じく 草 菊

美紫 荻の糸 紫 荻 子 荻 切さ 荻 ツノ

び 芦 維 韮 草 葉 菜乃 花 大根 葱 角く

苜 海雲 帝 葛い けほ 里 麻 角 為

水屋触 三日或ハヤセ 三日四日五日 廣津 辰日 龍田祭 四月 山崎日ノ使 ツカヒ

三月八瀬祭 辰日 擬階奏 乙卯月別凡ハ八時辰 窪佛 八日 仏生會 持花會 俗佛

鷹入鳥屋 八日 戒壇堂開帳 八日 山崎祭 日

多賀祭 上巳 八幡祭 中 平安天神祭 午日

伊勢袈裟祭 十四日 麻糬乃連 乙卯入麻 日吉祭 申日

中山祭 日 吉田祭 中子日 男 カモ 冥白 カモ 加茂御申

三枝祭 三川祭 干子 十六日 三井 カ 燈籠祭 中

向日的神祭 中クセ 久世祭 中 清水地 九 當 日

花供 九日 高神大所乃 神祭 林 カ

松葉後子 上 梅天 カ 和法 テ 小満乃節 四月

煮酒 麦秋 麦 秋 芋植 カ

牧のり 下 苔乃花 若 牡丹 カ 杜若 カ

六日 草 草 カ 草 カ 草 カ

花 草 草 カ 草 カ 草 カ

草 カ 草 カ 草 カ 草 カ

草 カ 草 カ 草 カ 草 カ

小角弓は公卿とて射 札印符 五 赤靈符 日 日

あてしをと合牛 札印符とて屏風帳廉 百子と

たてつり 合て掛負する中あり 南陽とあり 音

東乃美 梟はあづりもの 而友いあり

向踏 古とあり ぬえと銅て五月又月は其衣れとわりて

後渡 屯車 水馬 五日川はたても乃を建かどと

騎射 九日 九近乃まほはらひ ぶひの六

是といちり此日とあり 三日いたせ乃わてづひの四と近

福の鹿といわきぎる松といひの松

下地 神水 櫛をキノ時の雨 賀茂乃

五日のつる 檉はびの地 五日檉乃たてとてあひの

糸糸 五月 袋はの神糸 十三 両糸糸 九三日

今宮糸 十五日 寂勝講 法海教て

有糸 十日 大五 賑給 毛いひや

佳吉の沖田植 合日 大原志 日 山田田扇

芭控乃節 五月 甚至 五月 中へらつて

五月 中へらつて

上

徽雨 黄栌 五
鹿ふ 雨 九合
絨園 花 出 洗 此
日

中 菱 生 五月 廿 日
富士 垢 雛 蟬 乃 初 菱

富 乃 毛 藻 乃 毛 藻 乃 毛

藤 乃 毛 百 合 紫 陽

菖 乃 毛 菖 乃 毛 菖 乃 毛

石 乃 毛 石 乃 毛 石 乃 毛

朝 乃 毛 朝 乃 毛 朝 乃 毛

天 乃 毛 天 乃 毛 天 乃 毛

早 乃 毛 早 乃 毛 早 乃 毛

生 乃 毛 生 乃 毛 生 乃 毛

桃 乃 毛 桃 乃 毛 桃 乃 毛

柳 乃 毛 柳 乃 毛 柳 乃 毛

枇 乃 毛 枇 乃 毛 枇 乃 毛

青 乃 毛 青 乃 毛 青 乃 毛

祇園會

七日 長刀鉾 小まがりぶこ 月ごと 盆ぶこ二
おんぎと きまらぶと 祇下ぶこ 舟と

郭巨の盛京山 翠々破山 くらさ川やま かまきり山 ち子山
ふがふ白糸久 苦河山 花籃入山 大神山 出岩山
くよ祇園の寺はより曲糸 糸極の所 祇園所すく 神楽をせし
とて 十曾橋糸糸山 五まき山 輕山 八まん山 くらん山
まると 同 後の行者 すぐら山 常山 盆ぶこ 盆ぶこ

津島糸 十四日 舟まがりよふ
桃灯のぼん
贊田糸 十四日

川下海糸 十五日 竹生袴糸 十四日 江戸山

五糸 十四日 相まの職法 十七日 祇園祇園の糸 十四日

花の食 十六日 伊勢糸 十一日 盆ぶこ

多のあつり 十六日 志渡寺糸 十四日 産の糸 十九日

富士詣 一日より 舟の市 舟子洗箱 十九日

鞍乃竹切 廿日 志は心日 詣日 掃之糸 廿日

天後天神乃御後 廿五日 大板屋糸 廿二日

賀茂水之月乃結 廿日 住吉の御後 廿日

大板 廿日 出後川 廿日 舟折 廿日 土二月とあまの

菅貫 廿日 舟の代 廿日 舟の代 廿日 舟の代 廿日

舟の代 廿日 舟の代 廿日 舟の代 廿日 舟の代 廿日

葛水

子飯

者冷

赤心

葛子

梅

夜切茶

梅ひき

梅凌

子桃

楊梅

李

林檎

百目紅

梅子

梅子

澤

浮

浮

蓮

蓮

蓮

澤

浮

浮

浮

浮

浮

澤

浮

浮

浮

浮

浮

澤

浮

浮

浮

浮

浮

澤

浮

浮

浮

浮

浮

澤

浮

浮

浮

浮

浮

澤

浮

浮

浮

浮

浮

澤

浮

浮

浮

浮

浮

澤

浮

浮

浮

浮

浮

澤

浮

浮

浮

浮

浮

澤

浮

浮

浮

浮

浮

澤

浮

浮

浮

浮

浮

澤

燧のり衣

燧のり衣燧のり衣

乞巧天

乞巧天乞巧天

七箇池

七箇池七箇池

握乃葉

握乃葉握乃葉

芋乃紫

芋乃紫芋乃紫

七日御命供

七日御命供七日御命供

本願寺門跡

本願寺門跡本願寺門跡

乃紫花吐

乃紫花吐乃紫花吐

飛鳥外家

飛鳥外家飛鳥外家

六道系

六道系六道系

扶愛

扶愛扶愛

孟蘭盆

孟蘭盆孟蘭盆

清水寺

中元日

孟蘭盆

暮戸

根草

根草

身玉

七月初先祖の墓

七月初先祖の墓

加多躍

小町どろり

小町どろり

指

十六日抱火

十六日抱火

新綿

盆持法

盆持法

字松

盆持法

盆持法

盆持法

盆持法

盆持法

十五日今八
十二月十五日

懐安飛乃瓦十五日今八

解夏草花火水

うけ草地花

糸徳化

柳相撲

病乃

妻乃

秋風乃

ひや乃

実乃

芭蕉乃

萩乃

花乃

相撲草乃

茶師草乃

十五日今八
十二月十五日

懐安飛乃瓦十五日今八

解夏草花火水

うけ草地花

糸徳化

柳相撲

病乃

妻乃

秋風乃

ひや乃

実乃

芭蕉乃

萩乃

花乃

相撲草乃

茶師草乃

白紙の尻帳 日 教訓系 十日 土目系及此
六位マとて撰て

采爵やういもるとまの川 十五日 西野乃

津ハ懐系 十五日 志賀ハ懐系 十五日 豊浦系 長門

宇佐宮系 十五日 相持系 同日 月 三月月 月廿号 月廿日

月廿日 月廿日 月乃氣 月廿日 月廿日 月廿日 月廿日

孟の光 月廿日 月廿日 月廿日 月廿日 月廿日 月廿日

十六日の月 月廿日 月廿日 月廿日 月廿日 月廿日 月廿日

名月 月廿日 月廿日 月廿日 月廿日 月廿日 月廿日

御盤系 十八日 東名系 十八日

後れ彼岸 穴ハ秋紀 八月 死活杖乃系 八月

西院系 八月 秋乃氣 八月 龍回娘 八月

多秋乃氣 八月 芙蓉 八月 木犀花 八月

花野 薄 東 宇治村を還 漆乃

花野 薄 東 宇治村を還 漆乃

花野 薄 東 宇治村を還 漆乃

花野 薄 東 宇治村を還 漆乃

下多御祭 十日 例幣 十日 告相撲會 十三日 住

吉津市 十三日 粟倉月 十五日 岩倉祭

十三夜 十五日 粟倉月 十五日 岩倉祭

十九日 小倉祭 十九日 幼學會 三月 粟田口祭

一三祭 神田明神祭 武列 度會新嘗

十六日 墨濱祭 山口祭 中巳年 冥服祭

十八日 女利女祭 室所 有 猿庚

九日 八幡祭 城南寺祭 九日 上

天五寺弦縁 薩埵 右奉祭 廿二 牛祭 廿二 信祭 廿二

天満痛流馬 九五日 不懐祭 九四 鹿角祭 日

送安祭 小山祭 廿六 福五神 廿八 柳の御授

霜乃節 九月 荏蛉とある 荏乃りせ

百義 荏草 荏乃り 荏乃り 荏乃り

荏乃り 荏乃り 荏乃り 荏乃り 荏乃り

荏乃り 荏乃り 荏乃り 荏乃り 荏乃り

荏乃り 荏乃り 荏乃り 荏乃り 荏乃り

荏乃り 荏乃り 荏乃り 荏乃り 荏乃り

おつるや 糶糟と食 百夜よ蒲芝 進炉炭 糶糟 糶糟舎

為讀 一日夜よ都の法入 亥子乃餅 五ノチ 立本節 十月

冬立 冬止 村場始 残菊 五ノチ 糶糟 糶糟

俗て馬をある事 達 十夜乃志 五日 糶糟

眞福寺法 六百 維广舎 十月 金比 十月

御氣 十三 下元日 十月 水宿解 元

東福寺 十月 夷講 十月 大松神事 中

林集 由雲 林乃留主 十月 小雲前

十月 法務寺 九月 大業云 九月 短閑 十月

相火桶 十月 乃切 十月 初霜 十月 川

代田雨 十月 志 十月 初霜 十月 川

青女 十月 志 十月 初霜 十月 川

初霜 十月 志 十月 初霜 十月 川

栞 十月 志 十月 初霜 十月 川

栞 十月 志 十月 初霜 十月 川

枇杷乃花 十月 志 十月 初霜 十月 川

曆 一目 朔旦冬至 土月朔日 芝品親身世

發置 一陽乃赤節 十月八号湯沢月之 菅原を系

襪 ともきつる 履と妖系

系 上卯日大和佳吉太林 虎陣 兼智之富 菅本 勝紀 伊保

宗 日茶等此 科系 上卯 平野系 上申 春日

系 日 松本系 日 當广系 日 率川系 上酉 梅

官系 日 南宗系 日 中心系 日 松尾系 日

大原野系 日 園韓神系 日 吉田系 申日

日吉系 日 殿上 割碎 日 将乃 仗 日 五節 長基 日 法

豊明 日 中辰日 乃 系 中甲 加茂 院 乃 系 下 西日 東

三原 御 神 系 日 下 卯 星 祚 系 小 忌 夜 日 油

日吉 院 乃 系 中甲 加茂 院 乃 系 下 西日 東

三原 御 神 系 日 下 卯 星 祚 系 小 忌 夜 日 油

日吉 院 乃 系 中甲 加茂 院 乃 系 下 西日 東

三原 御 神 系 日 下 卯 星 祚 系 小 忌 夜 日 油

日吉 院 乃 系 中甲 加茂 院 乃 系 下 西日 東

トノタチ
多之慕
教訓
草
ざり
た
る
力
草

近
返
多
符
煖
多
室
若
多
綜
多
く

初
節
鮎
石
花
松
丈
魚
あ
ら
れ
の
あ
ら
る
多
く

茶
之
心
玉
滴
強
姜
肉
粟
海
り
若
膏
麦
湯
ひ
び

凍
雪
雷
總
貫
雪
車
よ
乃
る
機

二月
あ
の
ま
な
月
物
の
の
月
三
を
月
季
を
蟬
月
冷
月
大
呂
極
月
身
月

乙
子
朔
日
人
代
乙
子
を
あ
ら
は
す
忌
火
止
抑
飯
あ
ら
は
す

く
級
は
作
を
月
と
い
ふ
を
あ
ら
は
す
一
日
六
月
り

大神
祭
上
卯
日
天
智
天
皇
は
御
國
忌
三
日

御
饗
乃
御
占
奏
又
御
月
次
乃
祭
日
神
今
食

又
れ
か
り
正
月
事
を
し
め
御
佛
名
亦
日
ま
で

被
給
又
た
よ
う
く
相
利
梨
劫
盃
は
の
ま
ら
る
一
れ
左

御
饗
上
乃
と
あ
ら
り
て
や
く
事
し
六
牛
堂
子
也

像
と
し
大
き
日
禁
中
四
方
門
又
陰
陽
ノ
サ
キ

着
法
乃
改
あ
ま
り
内
御
所
乃
以
神
系
寂
勝

寺
の
灌
頂
十
音
温
糟
粥
八
粥
大
德
寺
忌
忌
日

弟三氏後いよ乃と愛戀し其申りも
月れる又二次の後又執事乃何をも其あふを老
かのみと定し

八分七角あり子押きて此処りて力たがもその自然

者ぐ一又面の中国宗きくしてあるとんはうか

二万すくま鬼女たのまうり世何言事いひ

裏連終とありて九白を林杖尺長をまき連擲

所長楊柳夢もあふたのたきと位も十の

も植物科砂可も花みはゆたぬ也

二通乃白却るると通るもわらばは喜喜申す

其を中より花とてとてふ人のたあ

それ付白の花者

裏初乃一咲はよくかろりとあはるけり

奉い八付のうらまはせは老い乃の付あ

の座乃具もさひの他はあくと付

白雲あてとものりのもかまふ

前三折乃をみ付るるもまはれと考て

書物と分別一後白より一巻は首元

盡放席可有光院

新室れ會又と燃ゆにあらざるの火元といふ多想のを
 の字た遷りて遊言妙法の母とてめらるるをみらま
 ち小道はとてやうに事申中より其の意あつて浪風
 をとるものなりとあるは及ぶと其の五術不具は情
 ちとねむりやむし多連花中より其の執人をもめらる
 きてとち量すべき物とて其の故人を遠戒と爲り
 てたよあるを
 一 出たは遊春
 一 悪座ををてあつて

- 一 衣裳衣法を多際不控也 イキウニククニガイフサウウ
カウキニアルハサウウ
- 一 高吟或執談 キニシロヒト
- 一 夢人或兒と回書吟也 キニシロヒト
- 一 他を難況化の遠自多品 キニシロヒト
- 一 自多の句付内座立 キニシロヒト
- 一 事座をりの教と好回書九教の句と傳 キニシロヒト
- 一 聴眼のくひ等 キニシロヒト
- 一 雜句禁る ヒシクキル
- 一 隣座人ト出やく リシガ
- 一 自多の句付と同講也 キニシロヒト
- 一 他を最付合執向云 ヒカクイヒアラス
- 一 一名軍とて傳合る ヒカクイヒアラス

右之外より其座法合なりとてとあること恐である
 と初學乃人先事法をこひて守りあるべき物なり

執事乃の得りて

一執事三十五三乃多備セキ一本事ケウのの之其席セキ乃真ケウ無ケウの執事次

弟ニ又ニちニらニもニれニ之ニ吟キニ色セ也ニ多ニうニ 上乃百八三切下れ其又字をたきやうに披考す人ノト此百八

二初ノ是も下れ其又 字ニ六ニ行ニテニ考ニ合ニをニ考ニ入ニ塞ニ月ニ花ニ有ニ所ニをニ考ニ合ニ

儀ニ帝ニ面ニ其ニ子ニのニ也ニとニ考ニ合ニをニ考ニ入ニ塞ニ月ニ花ニ有ニ所ニをニ考ニ合ニ

のニのニ考ニ合ニをニ考ニ入ニ塞ニ月ニ花ニ有ニ所ニをニ考ニ合ニ

儀ニ帝ニ面ニ其ニ子ニのニ也ニとニ考ニ合ニをニ考ニ入ニ塞ニ月ニ花ニ有ニ所ニをニ考ニ合ニ

儀ニ帝ニ面ニ其ニ子ニのニ也ニとニ考ニ合ニをニ考ニ入ニ塞ニ月ニ花ニ有ニ所ニをニ考ニ合ニ

儀ニ帝ニ面ニ其ニ子ニのニ也ニとニ考ニ合ニをニ考ニ入ニ塞ニ月ニ花ニ有ニ所ニをニ考ニ合ニ

